

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ西里 (こすもす)		
所在地	静岡県静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2294200999-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援しています。また、礼儀礼節マナーの強化とサービス業である事の自覚を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多種多様な野生動物に遭遇することもある山間地の風光明媚な景色と、職員の優しさと誠実さが自慢の事業所です。おう吐してしまい「向こう(リビング)でご飯が食べられない」と泣き出してしまった利用者のもの悲しい心持を察した職員が二人で食事することを申し出るといったことが日常にあり、一方で親子喧嘩のように言い合いもしたりと、その本気の姿が利用者にダイレクトに伝わっていて、気が許せる関係が作られています。管理者のお洒落な古着を譲ってもらう人が楽しみな人、「〇〇さん(管理者)がいいといった」と職員をだます人…、夫々が自由に振る舞えている様子に安心感が満ちます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誹謗中傷陰口の徹底追及と禁止、又自分に厳しく人に優しいをモットーに更に職場環境は改善されている。 新人育成とオリエンテーションにて取り入れている。	「その人らしく 安心した暮らし なじみの暮らし」との理念は、利用者の今まで使っていたものを持ち込んでもらうようお願いするとともに、職員にはランクアップ研修で浸透を図っており、体現できていることが自慢です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策として最大限の配慮にて行事は行っている。 ピザ・寿司・うなぎ等の宅配利用にて各行事によりアレンジしている。草刈りを実施。	コロナ禍となる以前は地域の「たけのこまつり」で猪肉の肉まんを食べたりと楽しい時間ももていました。雨量が増すと自治会長の立ち寄りがあり、また利用者の後見人が草を刈ってくださる等、外部からの訪問者は途絶えていても地域に支えられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の近隣施設管理者との意見交換イベントに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策に向け、延期通知済み。 現状年6回の運営推進会議が出来ておらず、書面にて通達、必要事項の意見交換している。	コロナ対策として、昨年の6月からは人が集まらない書面開催で運営推進会議を実施していません。2ヶ月毎に男女比率や介護度を明示し、活動報告もピザパーティーや誕生会などの行事を交えて丁寧に記述されていることを視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括支援センター・地元自治会と相互の協力体制を築いている。 地域包括支援センターを通じて、情報をもったり、またサービス利用など介護に関する相談に応じている。 防災、コロナ対策につき連携強化している。	市役所からは、マスク・消毒液が2回届いており、ワクチン接種では「職員も」と含めてもらえ、完了しています。また、両河内地域包括支援センターが主宰する「両河内事業所連絡会」への参加や生活保護者の受入れ(現在7名)にも協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行っていない。 職員にも理解してもらう為に、何かあれば、その都度説明をし取り組んでいる。 スタッフ会議、管理者会議にて話し合いも設けている。 議事録を使いより具体化した。	身体拘束適正化検討委員会は各事業所の管理者が集まって実施されていますが、事業所内に落とし込むのは回覧に留まっています。また、委員会における協議には現場の具体例が薄い点も気がかりで、総じて本件に係る書面整備が不十分です。	新人研修の確認表をはじめとする書面整備とともに、委員会の内容を所内に落とし込むプロセスと記録が明確になると、なお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で防止に努めるようにしている。 特に会議で力を入れている議題であります。 契約時、家族に防止対策の説明と宣言を追加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて説明		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。 利用者・家族から質問、不安等あれば、時間を作り対応している。 非常に濃い連携が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があれば、スタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。 具体的な議論にて業務に活かしています。 コロナ影響の為、FAX・TELにての家族連絡をマメに行い面会は予約制にした。	面会は「密を避ける」など体制を整え予約があれば1日1組をOKとしていましたが、緊急事態宣言に呼応して一時中止となっています。家族には「令和〇年〇月利用者状況報告書」と題して1ヶ月の様子を届けることで、要望や意見の返信も得ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見・提案があった時は、職員が納得するまで十分話し合い、反映させている。 また、日頃職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	総じて管理者と管理者補佐、職員は上下関係の隔たりなく気軽に何でも話せています。またシフトの都合上1ヶ月近く管理者と会わないパートターマ職もいて、そういった状況には管理者補佐が入って職員の話に耳を傾け情報共有を叶っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。 自画自賛ではありますが、抜群の職場環境であると思います。離職率、勤務姿勢に全て表れています。新人教育のマニュアル整理・一貫性を統一した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修によるランクアップ試験を行っている。 個々とのコミュニケーションとメンタル技量を把握し、それに適した環境作りをしている。 オリエンテーションの内容強化。 (新人マニュアルの見直し)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ影響により書面、TELによる連携		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。入居直後は、コミュニケーションを密に取り、関係作りに努めている。 入居後の不安や心配事に対し対策と解決策への打ち合わせ強化。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、面談・見学を行い、状況確認に努めるようにしている。また、不安等が強いようであれば、体験入居なども進めている。 入居まで出来る限りの情報収集する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向・ADLを考慮し、必要に応じて福祉用具・リハビリ等の利用ができるように努めている。 これまでの生活習慣を配慮し、参考に対策する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることは、行って頂いている。 食器洗い、洗濯物のたたみ等積極的に協力していただき、一緒に暮らす仲間としての関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が利用者を支えるパートナーとしての関係を築けている。ご家族様の協力が難しい場合でも、小さなことから協力して頂けるよう、連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等ご面会に来やすい雰囲気作りに努めています。 コロナ対策の為、現在は面会制限中。	利用者に在宅の頃からの趣味はないものの、職員があれこれ用意するレクリエーションを通じて此処でカラオケに親しみはじめる人が増えています。十八番の「知床旅情」をご満悦な様子で堪能する姿に事業所でも歓び、購入する曲数がどんどん増えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションがとりやすいよう、職員が間に入るように努めている。 相性の良い悪いを考え、席位置の配慮に努めている。 ユニット移動による対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必ず数回その後の様子を移転先に伺っている。 また、その際同業者とのコミュニケーションを深めている。 通夜、葬儀への参列。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報収集を行い、極力本人の意向に添えるよう努めている。 誠心誠意対応している。 おたよりに短文の手紙を入れ、意見交換。	入居の折に在宅の介護支援専門員のアセスメント表をベースに家族の話も加えて事業所のシートに落とし込んでいますが、大事なことは暮らしの中で直接利用者本人から知ることが多く、「しおざわのパンが食べたい」との声に1時間近く車を走らせる日もあります。	事実情報としての記録は残されていますが、アセスメントシートが利用者情報の軸であることから、定期更新の実施を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族からの情報収集を行っている。 必ず面談している。 極力今までのあった生活スタイルを持ち込める様、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状況の把握は、常に行っている。 性格や相性の分析強化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、課題を検討し、介護計画を作成している。 ケアマネとの連携。月2回面談している。	スタッフ会議が月1回あり、計画作成担当者とともに介護支援専門員がカンファレンスにも参加していますが、身寄りがある人が4名で、家族意見の反映という点は乏しいものがあります。常勤ではない介護支援専門員とは管理者が月2回面談して実状を伝えています。	次の2点を期待します。①家族がある人も少ないため本人の代弁者として職員意見の集約がより活発となる取組み ②介護支援専門員が常勤者でないことを補完するためのさらなる工夫
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できている。 スタッフ会議、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様と話をしながら、できる限りの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は、行っている。 必要に応じ、診療や医療の提供を行なう。 訪問診療と密度の濃い連携を取っている。	「家族が通院介助をおこなう」ことになっていますが、実際家族がいない人が少なく、協力医の訪問診療を受ける人がほとんどで、当日は勤務の職員が立ち会っています。また専門医の受診支援は管理者が主となり、事業所が代行することが増えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に情報を伝え相談し、適切な受診・医療が受けれるようしている。 また、認知症高齢者に関する処遇方法についての相談や利用者の退去に関する相談もしている。 安定剤の知識共有強化。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との面談を行い、利用者の状況把握に努めている。また、ADLの低下をなるべく抑えられるよう、早期退院を目標に連携を常にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。また、ADLの変化や医療が必要になった場合は、その都度、本人・家族と相談し方向性を示している。 看取りに関する説明を意識した。	「緊急時の対応及び重度化・看取りに関する方針」を家族に説明のうえ「ターミナルケア同意書」得ており、また職員の定着率も高く、何かあれば管理者と管理者補佐が駆けつける体制があり、職員は不安なく看取りに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が実施していない。施設長による24時間オンコール対応で対応している。 近隣住民スタッフ・リーダー・主任・施設長・サニーメディカル連携強化済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、警察近隣住民との連携を新たに強化した。 30年度台風体験により備蓄と電力対応の強化。 同地区包括主催によるセミナーにて協議。	防災訓練は、本年4月には法人内のグループホームとの共同実施に至り、当地域ではなかなか実現しにくい消防署の指導を受けることができている。8月に予定していた2回目は台風で延期されていますが、年度内にはおこなう予定です。	備蓄の賞味期限は概ね管理されていますが、チェックシートを作成して職員間で情報共有できることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には敬語を使い、利用者を尊重した対応をしている。 常に家族が隣にいるつもりで目上の方に対する礼儀礼節を徹底している。 言葉遣いには更に気配りしている。	山間で誰かがのぞく懸念はないものの、居室での着替えにはカーテンを引き、浴室の脱衣スペースでは膝の上にバスタオルを置くようにしています。また排便の状況を聞くと怒り出す人には便臭があるうちに職員がトイレに確認に走っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見を伝えやすい環境作りに努めている。 主張の強過ぎる方と弱い方とのバランス対応を取り入れている。 施設長と利用者の個人面談取り入れ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに添えるように努力している。ルールで縛りすぎない環境作り。 スタッフ → リーダー → 主任 → 施設長対応		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けている。 本人の意向を尊重。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店やスーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供し、食事を始めるように取り組んでいる。 個々により食事形態や味付けに工夫。	月～金の昼はお弁当ですが、他は職員の手作りで惣菜3品とボリューム満点です。刻み1名、すりつぶし2名と嚥下が心配な利用者もいますが、食事介助には及ばずに済んでいます。年越しそばや節句のちらし寿司と、行事食もバラエティに富んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、料理全体の量を個人に合わせている。また、水分量には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところまで行って頂き、出来ないところを職員が支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。 最大限の配慮と最低限の支援介助。	平均介護度1.9とデイサービス並の壮健さです。本人の意思でトイレに向かうほか、排泄チェック表をもとに職員がリズムを掴む中で日々便座に座れていて、おむつを使用する人もなく布ばんつの人が4名、他はリハパンとパットで過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理や日々の水分補給などで工夫している。 医療連携により処方とアドバイスによる対応。 薬による調整。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、楽しんで入浴してもらえるよう努めている。 スタッフとの相性を取り入れている。	お風呂が好きな人がいたときは頻回に湯をはっていましたが、現在は拒否が目立ち、週2回を清潔の目安として入浴介助をおこなっています。管理者のことが好きな利用者には「管理者に頼まれている。ぼくが怒られる」と言うとなんとか入ってくださいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせ、横になる時間を設けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が共有できるファイルがある。受診後は、内容を周知している。 医師の指示を参考に対応(打合せ)している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく利用者一人一人の楽しみごとを把握し、気分転換できるよう支援している。 コロナ時の為、対策中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と何を食べたいか相談し、毎月外出に出かけ、気分転換を図っている。 デリバリーや季節に応じたアレンジ(ピザ・寿司・うなぎ・流しそうめん)	4月にはピストン送迎でなんとか桜の花見を実現させていますが、外出支援はコロナの状況に翻弄されています。外出やテラスでのBBQもできにくくなり、ピザ・寿司・うなぎといったメニューのテイクアウトや、職員手作りのお好み焼きなどで非日常を楽しんでいます。	コロナ禍で外出が格段に減っていますが、降りないドライブやDVDの借り入れなどで季節を感じる時間をつくることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っている。 主任・リーダーで対応している。 一人一人の帳簿にて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が得られるように、飾り付けなどを行い、心地よい空間作りに努めている。 居間に隣接して広いテラスが設けられ、パーベキューなどを行うこともできる。 行事に応じイベント開催。テラスリフォーム、草刈りをしガーデニング準備。	事業所の建物周辺の土が植物の生育に適さないとわかってからプランター植栽を始めたほか、写真掲示にも力を入れ、1年前から飛躍的に整備されています。また「オリンピックだからマスコットキャラクターを飾ろう」などと時節に合わせた空間づくりにも余念がありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に隣接して広いテラスが設けられ、利用者が自由に出入りできるようになっている。自分で洗濯物を干したり、設置されたイスで日向ぼっこなど行うこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境で過ごして頂けるよう、使い慣れた物を施設でも使って頂くなどして、配慮している。	高齢もあって足腰の筋力低下が進んだ利用者の居室では、頭の向きを考慮しつつベッドを入口ドアに近い場所に移動させています。また管理者のお洒落な古着を気にいっていて、日に日に衣服がたまっていく部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、利用者のADLに合わせ施設内を工夫するように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200999		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ西里 (なののはな)		
所在地	静岡県静岡市清水区西里1460-1		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	令和4年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2294200999-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援しています。また、礼儀礼節マナーの強化とサービス業である事の自覚を高める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多種多様な野生動物に遭遇することもある山間地の風光明媚な景色と、職員の優しさと誠実さが自慢の事業所です。おう吐してしまい「向こう(リビング)でご飯が食べられない」と泣き出してしまった利用者のもの悲しい心持を察した職員が二人で食事することを申し出るといったことが日常にあり、一方で親子喧嘩のように言い合いもしたりと、その本気の姿が利用者にダイレクトに伝わっていて、気が許せる関係が作られています。管理者のお洒落な古着を譲ってもらう人が楽しみな人、「〇〇さん(管理者)がいいといった」と職員をだます人…、夫々が自由に振る舞えている様子が安心感が満ちます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誹謗中傷陰口の徹底追及と禁止、又自分に厳しく人に優しいをモットーに更に職場環境は改善されている。 新人育成とオリエンテーションにて取り入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ対策として最大限の配慮にて行事は行っている。 ピザ・寿司・うなぎ等の宅配利用にて各行事によりアレンジしている。草刈りを実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の近隣施設管理者との意見交換イベントに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策に向け、延期通知済み。 現状年6回の運営会議が出来ておらず、書面にて通達、必要事項の意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・地域包括支援センター・地元自治会と相互の協力体制を築いている。 地域包括支援センターを通じて、情報ももらったり、またサービス利用など介護に関する相談に応じている。 防災、コロナ対策につき連携強化している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、身体拘束は行っていない。 職員にも理解してもらう為に、何かあれば、その都度説明をし取り組んでいる。 スタッフ会議、管理者会議にて話し合いも設けている。 議事録を使いより具体化した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で防止に努めるようにしている。 特に会議で力を入れている議題であります。 契約時、家族に防止対策の説明と宣言を追加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて説明		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。 利用者・家族から質問、不安等あれば、時間を作り対応している。 非常に濃い連携が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があれば、スタッフ会議で話し合い、運営に反映させている。 具体的な議論にて業務に活かしています。 コロナ影響の為、FAX・TELにての家族連絡をマメに行い面会は予約制にした。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見・提案があった時は、職員が納得するまで十分話し合い、反映させている。 また、日頃職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。 自画自賛ではありますが、抜群の職場環境であると思います。離職率、勤務姿勢に全て表れています。新人教育のマニュアル整理・一貫性を統一した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修によるランクアップ試験を行っている。 個々とのコミュニケーションとメンタル技量を把握し、それに適した環境作りをしている。 オリエンテーションの内容強化。 (新人マニュアルの見直し)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ影響により書面、TELによる連携		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。入居直後は、コミュニケーションを密に取り、関係作りに努めている。 入居後の不安や心配事に対し対策と解決策への打ち合わせ強化。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった場合は、面談・見学を行い、状況確認に努めるようにしている。また、不安等が強いようであれば、体験入居なども進めている。 入居まで出来る限りの情報収集する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向・ADLを考慮し、必要に応じて福祉用具・リハビリ等の利用ができるように努めている。 これまでの生活習慣を配慮し、参考に対策する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができることは、行って頂いている。 食器洗い、洗濯物のたたみ等積極的に協力していただき、一緒に暮らす仲間としての関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・職員が利用者を支えるパートナーとしての関係を築けている。ご家族様の協力が難しい場合でも、小さなことから協力して頂けるよう、連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等ご面会に来やすい雰囲気作りに努めています。 コロナ対策の為、現在は面会制限中。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がコミュニケーションがとりやすいよう、職員が間に入るように努めている。 相性の良い悪いを考え、席位置の配慮に努めている。 ユニット移動による対応。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後必ず数回その後の様子を移転先に伺っている。 また、その際同業者とのコミュニケーションを深めている。 通夜、葬儀への参列。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの情報収集を行い、極力本人の意向に添えるよう努めている。 誠心誠意対応している。 おたよりに短文の手紙を入れ意見交換。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族からの情報収集を行っている。 必ず面談している。 極力今までのあった生活スタイルを持ち込める様、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状況の把握は、常に行っている。 性格や相性の分析強化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、課題を検討し、介護計画を作成している。 ケアマネとの連携。月2回面談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できている。 スタッフ会議、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様と話をしながら、できる限りの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の支援は、行っている。 必要に応じ、診療や医療の提供を行なう。 訪問診療と密度の濃い連携を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に情報を伝え相談し、適切な受診・医療が受けれるようしている。 また、認知症高齢者に関する処遇方法についての相談や利用者の退去に関する相談もしている。 安定剤の知識共有強化。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との面談を行い、利用者の状況把握に努めている。また、ADLの低下をなるべく抑えられるよう、早期退院を目標に連携を常にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。また、ADLの変化や医療が必要になった場合は、その都度、本人・家族と相談し方向性を示している。 看取りに関する説明を意識した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が実施していない。施設長による24時間オンコール対応で対応している。 近隣住民スタッフ・リーダー・主任・施設長・サニーメディカル連携強化済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、警察近隣住民との連携を新たに強化した。 30年度台風体験により備蓄と電力対応の強化。 同地区包括主催によるセミナーにて協議。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には敬語を使い、利用者を尊重した対応をしている。 常に家族が隣にいるつもりで目上の方に対する礼儀礼節を徹底している。 言葉遣いには更に気配りしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意見を伝えやすい環境作りに努めている。 主張の強過ぎる方と弱い方とのバランス対応を取り入れている。 施設長と利用者の個人面談取り入れ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに添えるように努力している。ルールで縛りすぎない環境作り。 スタッフ → リーダー → 主任 → 施設長対応		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみには気を付けている。 本人の意向を尊重。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店やスーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供し、食事を楽めるように取り組んでいる。 個々により食事携帯や味付けに工夫。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、料理全体の量を個人に合わせている。また、水分量には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来るところまで行って頂き、出来ないところを職員が支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。 最大限の配慮と最低限の支援介助。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理や日々の水分補給などで工夫している。 医療連携により処方とアドバイスによる対応。 薬による調整。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、楽しんで入浴してもらえるよう努めている。 スタッフとの相性を取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に合わせ、横になる時間を設けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が共有できるファイルがある。受診後は、内容を周知している。 医師の指示を参考に対応(打合せ)している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく利用者一人一人の楽しみごとを把握し、気分転換できるよう支援している。 コロナ時の為、対策中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と何を食べたいか相談し、毎月外出に出かけ、気分転換を図っている。 デリバリーや季節に応じたアレンジ(ピザ・寿司・うなぎ・流しそうめん)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っている。 主任・リーダーで対応している。 一人一人の帳簿にて対応。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が得られるように、飾り付けなどを行い、心地よい空間作りに努めている。 居間に隣接して広いテラスが設けられ、パーベキューなどを行うこともできる。 行事に応じイベント開催。テラスリフォーム、草刈りをしガーデニング準備。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に隣接して広いテラスが設けられ、利用者が自由に出入りできるようになっている。自分で洗濯物を干したり、設置されたイスで日向ぼっこなど行うこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境で過ごして頂けるよう、使い慣れた物を施設でも使って頂くなどして、配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、利用者のADLに合わせ施設内を工夫するように努めている。		